女子第１部

　女子第３部は３チームの巴戦。寂しい戦いとなった。しかし、３チーム共今秋の世界選手権大会代表選手を惜しげもなく出場させ、総力を挙げての大臣杯争奪戦を繰り広げた。

第１試合

	コマツ	２		－		１　自衛隊体育学校
（先鋒）	宇高　菜絵　２段		引分			藤田　康恵　３段
（次鋒	岩田　千絵　３段	⊖	（払腰）			廣村　麻衣　２段
（中堅）	岡　　明日香３段		反則勝		○	國原　頼子　３段
（副将）	渡邊　美奈　２段		引分			平井　希　　２段
（大将）	杉本　美香　２段	○	送足払			池田　ひとみ３段

先鋒戦。同一階級の両者の対戦。世界選手権大会代表の宇高は右で奥襟を狙うが、藤田は両袖を握ってこれを許さず。技の出ない両者に１分２８秒指導１。中盤以降は、宇高が優位に組み止めて攻撃機会を窺うも、藤田は機先を制して右小内刈、左袖釣込腰等を仕掛け、宇高に攻撃を許さずクレバーな試合運びを見せる。終盤も両者見るべき攻防のないままブザーが鳴る。

次鋒戦。同じく次鋒戦も同一階級同士の戦い。共に左組み手。岩田が組み手十分になる前に廣村が技を仕掛け、岩田がこれを潰して寝技で攻める攻防が続く。中盤以降も組み手は岩田が優位、手数は圧倒的に廣村という展開が続く。しかし、残り２６秒になって、それまで廣村を持て余し気味であった岩田が、組み手不十分のまま左払腰から巻込めば、廣村はごろりと転がって主審は有効を宣告するが、両副審は技ありの判断。コマツが先行する。

中堅戦。続いても同一階級の両者、互いに組み手を切り合う展開が暫し続く。しかし、世界選手権大会代表の國原は徐々に圧力を強め、開始２分近くになって岡を激しく揺さぶれば、岡は伏せながら思わず國原のズボンに触れたところ、主審の「待て」が掛り、審判協議の結果、新ルールが適用されて反則負の宣告。自衛隊体育学校が内容差で逆転。

副将戦。１階級上の世界選手権大会代表の渡邉は、右組みから盛んに攻撃を重ねるが、左組みの平井も渡邉の右足に左足を飛ばし牽制する。挽回を期す渡邉であったが、平井の巧みな試合運びに翻弄され勝機を掴めず、１分２８秒両者に指導１のみで引分。

大将戦。追う杉本は試合開始と共に猛然と池田に襲い掛かり、防御の池田に２８秒指導１。はやる杉本の攻撃をうまく捌いていた池田であったが、場外から戻り再開となった１分４５秒、杉本は組み際に右手一本で池田を釣り上げながら右足で掬うように払うと、池田の体は宙に浮いてそのまま落下。世界選手権大会代表杉本が地力を発揮、一本勝でコマツが逆転勝利する。

第２試合

	自衛隊体育学校	①	－	１	三井住火災海上保険
（先鋒）	藤田　康恵　３段		引分		山岸　絵美　３段
（次鋒	廣村　麻衣　２段		引分		中村　美里　３段
（中堅）	國原　頼子　３段	○	送襟絞		阿部　香菜　２段
（副将）	平井　希　２段		（指導２）	⊖	上野　順恵　４段
（大将）	池田　ひとみ３段		引分		上野　巴恵　２段

先鋒戦。左右のケンカ組み手。２階級上の藤田に対し、山岸は左から積極的に組んで行くが、１０ｋｇ近い体重差は如何ともしがたく、勝機を見出せないまま時間となり引分ける。

次鋒戦。世界選手権大会代表の中村は階級差をものとせず、果敢に担ぎ技、足技、寝技で廣村を攻めるも決め手を欠く。中村は残り３０秒にようやく指導１を奪うもそこまで。中村が有効ポイントを奪えず先鋒戦に続いて引分。

中堅戦。一回り体格の上回る國原が開始と同時に右組から、阿部を圧倒する。５０秒過ぎに阿部が不十分な体勢から不用意に左内股気味に左足を上げたところを國原が押し込んで崩し、素早く右手を阿部の首に回して送襟絞に入る。起き上がろうとする阿部を転がして完全に決め、１分８秒絞め落とす。

副将戦。何とかタイに持ち込みたい世界チャンピオンの上野姉であるが、慎重

になりすぎて技が出ず、２分３０秒に両者指導１。上野はようやく終盤になって攻勢に出る。守勢の続く平井に残り４５秒に指導２が与えられる。しかし、上野の攻撃もここまで。その後はポイントを奪えないまま時間となり、自衛隊体育学校がリードを保ったまま大将戦へ。

大将戦。両者、互いに左に組み合って攻防を重ねる。１分過ぎ攻撃の止んだ上野妹に指導１が与えられるが、上野は２分５１秒左小内刈で有効を奪い、逆転勝利のチャンスを掴む。しかし、上野は俄然反撃に転じた池田の攻めを受け続け、３分５８秒に２回目の指導を受ける。ポイントを並ばれてしまった上野はラストのスタミナを消耗し、あと一歩の攻撃が出ず引分に終わる。自衛隊体育学校の勝利が決まる。

第３試合

コマツ	２	―	０	三井住友火災海上保険

（先鋒）岩田　千絵　３段		引分	中村　美里　３段
（次鋒　宇高　菜絵　２段	○	小外刈	山岸　絵美　３段
（中堅）岡　明日香３段		引分	上野　順恵　４段
（副将）渡邉　美奈　２段		引分	阿部　香菜　２段
（大将）杉本　美香　２段	○	内股	上野　巴恵　２段

先鋒戦。共に左組み手の両者は組み合わず、組み手を嫌い合う展開。１階級下の中村は組み際に大内刈、小内刈等を仕掛けるが、組み手不十分のため不発が続く。岩田も攻撃の糸口を掴めず、引分に終わる。

次鋒戦。４８ｋｇ級の山岸は、５７ｋｇ級世界選手権大会代表の宇高と対等に戦ったが、試合終了間際に奥襟を掴んで極端な変形から左内股、左大外刈を何度も試みるところを、右組みの宇高に右に大きく振られると、軽量の山岸は大きく飛ばされ畳を背負う。山岸、残り６秒に痛恨の一本負を喫す。

中堅戦。１点を追う上野姉はケンカ組み手の岡を攻め切れず、大将にポイントゲッター杉本を残す岡は無理をせず、共に指導３まで受けて引き分ける。

副将戦。先鋒から大将まで、全対戦で階級上の選手と戦うというハンディを背

負う三井住友海上火災保険。副将戦も阿部が挽回を期して積極的に出るが有効ポイントを奪えず。対する渡邉はじっくり構えて受け流し、引分ける。

大将戦。三井住友海上火災保険期待の新鋭上野妹も、序盤は我が国女子柔道界で綜合警備保障の塚田と覇を競い合う杉本の激しい攻撃に翻弄され、防戦を余儀なくされる。後半に入り、ようやく杉本の攻撃パターンを掴んだ上野が、徐々に攻撃態勢に入った矢先の３分過ぎ、場外際で左右に組み合ったところを上野が左小内刈に入れば、杉本はこれをかわして右体落で応じ、続いて体勢の崩れた上野を前方に押し込むような右内股で転がし、３分５秒に一本を奪う。